



2025

新年のあいさつ

公益社団法人長野県介護福祉士会
会長 鈴木よし子

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、当会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございました。

今年も、地域の皆様、会員の皆様の意見を吸い上げ、職能団体としての使命を遂行していきたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

私は、今年も初詣に行き、寒風の中おみくじを楽しみ、初春の空気に触れることができました。参道の雰囲気に童心に返り、昨年度の忙しさを一瞬忘れ、会の運営が順調にできたこと、二重被災”となった能登半島の復興を目指している中、全国で報道される量も減ってきているが、現実そこには変わらない光景がある・・・でも、皆さんが頑張って生活を立て直してきたことに、感謝をこめて、拍手をパチンパチンと打ってきました。

私事ですが、朝洗顔したら腕がピリッとしたことを思い出しました。よく見てみると何かで引っかいたような擦り傷が。手足のしびれは毎日のようにあり仲良くしているところですが、この痛みは小さな傷ではありますがまあまあ痛いわけで、顔を洗っている間中この痛みが続くかと思うと結構大変だなあと思いながら、洗顔していました。そうすると、ほんの数十秒後には、腕の痛み、感じなくなっているんです。数十秒で治ったわけではないので、脳が痛み慣れたのですかねえ。有難い反面、「痛み慣れる」って怖いなとも思いました。実際に人間って、日々たくさんの痛み慣れながら、痛みに麻痺していることも気づかずにいることも沢山あるだろうなって思います。自分で自分の事を否定してきたことや、人からきつく言われても笑ってごまかすことを覚えたことで傷つき続けてきた部分とか。本当は泣きたいほど辛いのに、我慢することを覚えてしまったこととか。身体の傷ほど心の傷は自然治癒で治りきらないんですね。意識して傷に気づいてあげて、意図してそれをヒーリングしてあげる。「今まで気づいてあげられなくてごめんね」「もう大丈夫だよ。」「生まれてきてくれてありがとう」なんでもいい、心の傷が喜んでる言葉をかけてあげればいいですね。

傷ついて能登半島の二重災害、そして東北の豪雪災害。皆さんの心の内を思うと我慢せず、自分をほめながら、困難に、復興に立ち向かって欲しいです。

さて、新年を迎え介護福祉士の皆さん、会員の皆さんにお願いがあります。

2025年（令和7年）は、「地域包括ケアシステム」がさらに深化・推進への動きが本格化してまいります。介護分野は勿論、国民生活の基盤となる「住まい」「医療」「予防・保健」「生活支援・福祉サービス」をはじめ、コミュニティの構築などを強化することが大事とされています。職能団体としても、専門性を地域に、介護福祉士の価値観を地域に発信していくことが求められています。介護福祉士の資質向上、特にリーダー育成、専門技術や知識を倫理的配慮のもとに実践することも含め、大きく言えば、「地域へ」「専門性の構築」の二輪で活動していきます。

皆様からの要望や意見をもとに、課題に立ち向かっていきたいと思っております。課題解決に向けて一緒に前進していきましょう！

新しい年が皆様にとって幸多き素晴らしい一年になりますよう祈念いたします。